

100歳おめでとございます



立川 やすゑさん

(六之井)

大正5年1月4日生

町長が「95歳の時にはお宅にうかがったね立川さん。」と伺うと、「あらそうだったかしら、あのときはもっと若かったわ。」と思いついていました。リハビリセンター白鳥に入所中のやすゑさんは、デイに通っているお友達とおしゃべりして過ごしていらっしやいます。「生きておられるうちにみなさんとたくさんおしゃべりしたいわ。」と意欲的です。

町長が「これからも元気で頑張って下さいよ。」と励まされると、「まだまだですよ。皆さんには迷惑おかけしては駄目です。でもこれまでよく生きてこられて内心喜んでいきます。」と笑顔でお話しされました。

95歳おめでとございます



竹中 巖さん

(三和町)

大正10年1月3日生

グループホーム弥生に入所中の巖さんは、町長が訪問しますとご家族とともに迎えてくださりました。別の介護施設に入所されていらっしやる奥様も褒賞に駆けつけてくださいました。

95歳を迎えられ、今まで大きな病気もなくお元気でいらっしやる巖さん。若い頃の戦地に行ったときの鮮明な記憶とともに、「一時は身を捨てる覚悟でしたよ。」と話されました。

5つ年の離れた竹中夫妻。町長が「次は奥さんの95歳と100歳のお祝いをしましょう。」と励ますと、ご家族もお笑いになり、笑顔での写真撮影になりました。



松岡 かなゑさん

(八幡)

大正10年1月4日生

町長がお祝いのお花をお渡しすると、かなゑさんは、「まあきれいなお花やね、私はお花が大好きなのよ。」と喜ばれました。週3日ちゃぼほにデイサービに通われているかなゑさん。通いだしてもう随分となるようです。「朝に調子が良くななくても、ちゃぼほに行く車に乗ると元気になるの。友達もいっぱい。」と楽しそうに話されました。一時は絵葉書にはまっていたそうです。ご自宅にて鉛筆で下書きをして、施設で色をつけていたそうです。100枚くらい書きすぎて目がみえにくくなってしまったわ。」と残念そうでした。

町長が「95歳はあつというまでですか。」とお聞きすると、「そうなの。しらない間にね。」とお笑いになりました。以前交通事故に遭い、大けがをされた高崎さんですが、「リハビリは大変だったけど、自分の身体のためですから。」と、病院の先生が驚くほどに回復されました。



高崎 きよ子さん

(池野)

大正10年1月10日生

習字が得意な高崎さんは、書道の大会で特選をもらわれているそう、「昔から好きなんですよ。」とのこと。褒賞中はずっと笑顔のきよ子さん。ご家族は「95歳にもなり、笑顔で毎日過ごしてもらいたいです。」とお話しされました。

ライズに入所中の國夫さんは「自宅では離れにおりましたから夜は不安でしたが、ここにおれば心配してもらえて、家の者も安心です。」とお話されました。ベッドに腰掛けながら、「上はしゃんしゃんなんですわ。」とのこと。95歳になられた國夫さんですが、ときどき同級生のかたと連絡を取られるそうです。「元気でやっとなるか?」「おう。」という感じですよ。」と話され、お互いを励まし合っているようです。「100歳もお祝いに来るからね。」との町長の言葉に「はい。」としっかり握手されました。



河瀬 國夫さん

(片山南)

大正10年1月26日生

ライズに入所中の國夫さんは「自宅では離れにおりましたから夜は不安でしたが、ここにおれば心配してもらえて、家の者も安心です。」とお話されました。ベッドに腰掛けながら、「上はしゃんしゃんなんですわ。」とのこと。95歳になられた國夫さんですが、ときどき同級生のかたと連絡を取られるそうです。「元気でやっとなるか?」「おう。」という感じですよ。」と話され、お互いを励まし合っているようです。「100歳もお祝いに来るからね。」との町長の言葉に「はい。」としっかり握手されました。